

第3回富山市総合計画審議会 概要

場所：富山市役所8階大会議室

日時：平成18年7月25日

10:00～11:15

1 開会

2 議事

(1) 基本構想(案)に対する審議会・分野別部会での主なご意見と対応(案)について

事務局より説明

(2) 富山市総合計画基本構想(案)パブリックコメントにおけるご意見と市の考え方について

事務局より説明

< 概要 >

(会長) ただいま説明のあったことに対してご意見があればお伺いしたい。

(委員) 町村合併と市町村合併を経験した。

現在居住している旧村部の生活道路については、町村合併の前から改良を要望しているが、国道でありながら現在も1車線となっている。合併の効果が全く現れていない。

また、食料自給率が40%を切ろうとしているこのときに、合併した7市町村全て、ドーナツ化現象により人口が郊外に拡散し、周辺の優良農地がむしばまれている。この視点を総合計画に盛り込むべきではないか。

新市の総合計画では、都心部も地域の生活拠点地区も中山間地もその上の奥山まで良くしなくてはいけない。山・里・まちそれぞれで生活していける、一体感を持った市を作っていただきたい。

(委員) パブリックコメントのNo21にも意見があるとおり、旧6町村の住民の一番関心があるのは、合併の際に策定した新市建設計画と総合計画の関わりである。

また、昨今の豪雨により、海岸に多量な流木が流れついたが、森林の荒廃が要因の一つである。森林の整備には、林業の振興が必要不可欠である。

また、森林が整備され効果を発揮するには50年から100年かかる。他の5年や10年で成果の現れる施策と同じように考えていてはいけない。まずはそれを市や市民に理解してもらう必要がある。

(委員) 資料1のNo25であるが、基本構想を策定した後は、基本計画、実施計画の策定となり、徐々に市の施策が細分化されていく。今この時点で、時代の潮流、まちづくりの主要課題やまちづくりの目標が図として整理されていないことは、この基本構想の構造がはっきりしているのか懸念される。市民にわかりやすくするため、フロー図が必要と思う。

(会長) 続いて、議事(3)について山西協働部会長より説明願います。

(3) 答申(案)について
山西協働(調整)部会長より説明

(会長) ただいまの説明について、ご意見をお願いしたい。

(委員) 合併して新市になって2年が経過したが、各地域の総合行政センターの機能が低下しているように感じる。行政センターや地区センターが中心となって、地域を担うべきである。

(事務局) 合併した各地域は、各総合行政センターを中心に担ってもらうこととしている。
地域を担うべき職員には、行政センターと本庁職員の人事交流や、研修などを行っている。今後も地域の核として行政センターの機能を充実していきたい。

(委員) この基本構想は、学校教育の枠組みや取り組みを整理したものと思う。危機管理的に、悪いシナリオを数例あげ、対処方法をケーススタディ的に検討することで、基本構想に足りない部分や、部会間の連携が必要なところが見えると思う。どう危機に対処するのか議論することにより、構想をより深くできると思う。

(委員) 今のケーススタディの意見を聞いて気づいたが、基本構想の答申(案)の中に、施策の実施状況を検証する視点がないのではないか。
PDCAサイクルを機能させないと、総合計画がただの作文になってしまう。答申に記載することは、方向性として大事と思う。

(委員) 飛騨高山と連携を強めて、将来的に政令指定都市になれば良いと考える。

(会長) 他に意見がないようなので、審議を終了したいと思う。なお、本日頂いた意見に対する答申の対応については、私に一任いただきたい。

3 助役あいさつ

石田助役よりあいさつ

答申を最大限に尊重し、基本構想を9月の定例議会に提案したい。
委員においては、今後基本計画の審議をお願いしたい。

4 閉会

(以上)